

4K電子黒板で よりアクティブな提示環境に

荒川区立第四峡田小学校

校内配信システム+高解像度電子黒板で活用広がる



玄関フロアに6.5型4K電子黒板を設置して来校者へのメッセージなどを提示している

東京都荒川区では平成26年度から区内すべての小学校にタブレットPC（1・2学年は4学級35台、3・6学年は2学級40台の割合で配置）を導入しており、ほぼ1人1台で活用できる環境だ。電子黒板等大型提示装置は平成21年度から整備を進め、現在、全校全普通教室に整備済みで日常的に活用されている。電子黒板の授業活用が進むにつれ様々な活用が広がっていることから、荒川区立第四峡田小学校では、大型提示装置を各フロア1台程度整備。2月には最新型のブラビア65型4K電子黒板セット（ソニー）の活用を開始して玄関ホールに設置し、検証を始めた。山本洋校長に電子黒板の活用と4K電子黒板の使い勝手について聞いた。

同校には全普通教室の50型電子黒板に加えて、1Fは玄関に、2Fは英語教室に、3Fは音楽室に大型提示装置を常設。体育館や中ホール、ランチルーム、理科室や読

校内配信システムで電子黒板活用が広がる

区では校内ライブ配信や録画映像を配信できる「みらいスクールステーション」を導入しており、同校でも授業のほか様々なシーンで活用している。運動会では小ホールを「敬老席」として運動会の様子をライブで配信。冷房がある部屋で観戦できた。防災訓練の際は、不審者が侵入して教員が対応する様子を各教室に配信。臨場感を高めた。インフルエンザの時期には校長室から各教室の電子黒板に放送する形で全校



山本洋校長

書スペースなど必要に応じて移動して活用している。普通教室に持ち込めば2台の大型提示装置を活用でき、遠隔授業やグループ活動などで活用できる。これらは教員のニーズから学校予算等で導入したものだ。荒川区の学校長予算は、学校長が教育長の前でプレゼンテーションする必要があるため、その有用性を十分に学校長が理解していることが望ましいという。

朝会を実施。昨夏のような猛暑時の熱中症対策にも対応できる。

玄関フロアの大型提示装置には、来校者へのメッセージを流している。これまでディスプレイを設置していたが、今回これをブラビア65型4K電子黒板セット（以下、ブラビア）にしたところ、登校してきた児童は「大きい！きれいな！」と驚いており「4K放送も見られるの？」と興味を持ったという。来校者も提示内容に注目した。

ブラビアは解像度が高く輝度も明るいので、明るい校舎内のどこでも安心して活用できるという。WiFiに対応なので場所を選ばず設置できる点もメリッ

ミラーリング機能でタブレットPCと連携



タッチ操作で教材や映像を提示できる

山本校長は「ディスプレイよりも電子黒板の方がニーズは高いが、予算面から難しいと感じていた。ブラビアであれば学校予算でも導入しやすい。より鮮明に映ることで情報の取得量が変わり、意欲を刺激するなどの活用効果を示したい。児童が気軽に触れて情報を取得できるような仕組みとする、海外や国内遠方の学校と常時交流するなど教育機器にとどまらず生活情報を入力したり興味関心を高めたりするツールとして活用できれば」と語った。将来的には防災アナウンスを教室ごとに行えるよう、現在防災課と調整中である。

高解像度電子黒板を低価格で導入できる

電子黒板としてタッチ操作ができるようになったため、みらいスクールのソリューションがより活用しやすくなった。今後はこの機能を活かし、学年ごとの情報などより詳細な情報にアクセスできるようにする仕組みができればと考えている。